

莊子

莊子

2019 年本試

問 4 中国思想と仏教思想における心や身体についての考え方を説明したものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

14
----

- ① 莊子は，心身を忘れて自然と一体化するあり方を説き，何にも囚<sup>とら</sup>われない，精神の絶対的で自由な境地を目指した。
- ② 孟子は，仁・義・礼・智・信という五つの徳目(五常)を説き，それらを修養することで，浩然の気が身体に満ちあふれるとした。
- ③ 仏教では，人間を構成する色・受・想・行・識という五つの要素(五蘊)が説かれるが，その五つとも身体における物質的な要素のことを表す。
- ④ 仏教では，心や身体が変わらないものであることを知ることによって，煩惱の炎が吹き消された涅槃の境地に至るとされる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	①	3

2016 年本試

問 8 絶対的なものを求める先哲の考えの説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

- ① アリストテレスは，あらゆるものの根源にある究極的原因を一者と呼んだ。そして，一者がすべての善の原因であり，これと一致した生に真の幸福があるとして，一者を追い求めることを勧めた。
- ② ムハンマドは，アラブ世界の多神教を批判して，厳格な一神教であるイスラム教を創始した。そして，アッラーに太陽神としての姿があることを認め，それを形にして崇拝すべきだと主張した。
- ③ 世親(ヴァスバンドゥ)は，宇宙の究極的原理である絶対者と，個人の本質が同一であると主張した。そして，そのことを直観して輪廻から解脱するために，欲望を捨て出家し，修行生活に入るべきだと唱えた。
- ④ 莊子は，万物はすべてひとしいとして，善悪や生死などの相対的な区別を超えるべきだと説いた。そして，天地万物の根源である道を自ら体現し，絶対自由の境地に遊ぶことを理想とした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	④	3

2015 年本試

問 2 莊子が唱えた「道」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

12
----

- ① 「道」とは，人間の従うべき道德の規範であり，忠恕に基づいた礼の実践によって体得されるものである。為政者は，この「道」に基づき，己を道徳的に修め，人を感化することによって，はじめて人を治めることができる。
- ② 「道」とは，万物の根源であるだけでなく，また人間の心のなかにも本性としてそなわるものである。しかし，私欲によってその発露が妨げられているので，うやうやしく慎むことによって，「道」を発揮しなければならない。
- ③ 「道」とは，差別がなく万物が等しい境地であり，自己の心身を忘れることで体得されるものである。そのためには，偏見に囚われずに，心をむなしくする修養を通じて，天地と一体になることが必要である。
- ④ 「道」とは，天地万物に内在する客観的なものではなく，人間の心のなかに生まれながらに存在するものである。したがって，外界の事物に「道」を追い求めるべきではなく，心のなかの「道」のままに生きるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	12	③	3

2014 年本試

問 4 莊子の思想を，儒家の思想と比較して説明した文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

14
----

- ① 過不足のない，調和のとれた中庸の状態を維持することを目指す儒家とは異なり，「心齋坐忘」を唱え，足を組んで座り，心を統一して，宇宙を支配する絶対神と一体となるべきと説いた。
- ② 儒家が，礼に従って家から国，そして天下へと社会の秩序を実現していこうとするのとは異なり，「小国寡民」を唱え，小さな共同体のなかで，何ものにも拘束されることなく質素に生きるべきと説いた。
- ③ 親に対する孝や，兄に対する悌を基礎とする道徳を重視した生き方を説いた儒家とは異なり，「万物斉同」を唱え，道徳的な判断や，あれやこれやといった物事の区別も相対的なものにすぎないと説いた。
- ④ 儒家が，身近な者に対する仁愛を他者に押し広げていくべきと説いたのとは異なり，「逍遙遊」を唱え，他者との関係を断ち，天地の間に充満する浩然の気を養い，安楽に生きるべきと説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	③	3

2013 年追試

問 5 次のア～ウは、古代中国の思想家の自然観に関する説明であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。

16

ア 自然現象を、対立しつつ補完し合う陰陽と、すべての物質を構成する五行という概念によって説明し、さらに循環する五行の順序に従って王朝が変わるとい説を唱えた。

イ 宇宙の根源であり、万物を生み出す本質を道と名づけたうえで、人間はその道を模範として、作為的に振舞うことのない自然に従った生き方をすべきであると主張した。

ウ 万物の区別や差異は人間の視点に立った相対的なものにすぎず、本来はすべてのものが等しい存在であると説き、あるがままの天地自然に身を任せるべきであると主張した。

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 鄒 | 衍 | イ | 老 | 子 | ウ | 莊 | 子 |
| ② | ア | 孫 | 子 | イ | 鄒 | 衍 | ウ | 老 | 子 |
| ③ | ア | 莊 | 子 | イ | 孫 | 子 | ウ | 鄒 | 衍 |
| ④ | ア | 老 | 子 | イ | 莊 | 子 | ウ | 孫 | 子 |
| ⑤ | ア | 老 | 子 | イ | 孫 | 子 | ウ | 鄒 | 衍 |
| ⑥ | ア | 莊 | 子 | イ | 老 | 子 | ウ | 孫 | 子 |
| ⑦ | ア | 鄒 | 衍 | イ | 莊 | 子 | ウ | 老 | 子 |
| ⑧ | ア | 孫 | 子 | イ | 鄒 | 衍 | ウ | 莊 | 子 |
| ⑨ | ア | 孫 | 子 | イ | 老 | 子 | ウ | 莊 | 子 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	16	①	3

2012 年追試

問 8 理想的な心の有様について、中国においても様々に考察されてきた。そのうち次の文章に記される思想を説いた人物として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

11
----

死と生，存続と滅亡，困窮と栄達，貧と富，賢と愚，<sup>そし</sup>謗りと誉れ，飢えと渴き，寒さと暑さ，これらはすべて事象の変化であり，運命の流転である。昼となく夜となく人間の眼前に現れ出てくるのであるが，人間の知はそれがどうして生じるのかをはかり知ることができない。それゆえ，このような変化によって心の平和を乱す必要はなく，これらを心の奥深くに侵入させてはいけない。……それよりも，日夜，遭遇する出来事を春のような暖かな心で包むべきである。

- ① 老子    ② 墨子    ③ 莊子    ④ 朱子

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	11	③	3

2011 年本試

問 7 先哲たちの死に対する洞察に関連して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想についての記述か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 

11
----

- ア 人の生は仮の宿のようなものであり、虚無から生まれ虚無へと帰るため、生の長短など、あらゆる相対的価値に囚<sup>とら</sup>われてはいけない。
- イ 人は業によって輪廻を繰り返すのであるが、不殺生などの戒めを守って苦行を重ね、悪業をなさないようにすることで輪廻から解放される。
- ウ 身体が減れば魂も飛散するため、生きている間は死に出会わず、死が来た時には私たちはもういないのだから、死を恐れる必要はない。

- |   |   |    |   |          |   |         |
|---|---|----|---|----------|---|---------|
| ① | ア | 墨子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エピクロス   |
| ② | ア | 莊子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | エピクロス   |
| ③ | ア | 孟子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | 孟子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | アリストテレス |
| ⑤ | ア | 莊子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | アリストテレス |
| ⑥ | ア | 墨子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | エンペドクレス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問7	11	②	3

2010 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

儒家を批判した莊子は、胡蝶の夢の寓話のなかで、蝶と自分の区別はないと説いた。さらに、是非や善悪などの対立は相対的なもので、人為や対立を超えたひとしい絶対的世界こそ真実だとして、この世界の<sup>ありさま</sup>有様を  と呼んだ。

- ① 逍遙遊                      ② 万物斉同  
③ 無為自然                  ④ 心齋坐忘

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	②	2

2006 年本試

問 7 道家のもう一人の代表的思想家莊子の思想を述べたものとして**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 

11
----

- ① この世界は，道がおのずから現れたものであり，そこには対立や差別はない。この認識に立ち，一切の欲望や分別から自由になった人が真人である。
- ② この世界は，道がおのずから現れたものであるので，己の心を虚にして，心身とも天地自然と一体になる境地が理想である。
- ③ この世界は，道がおのずから現れたものであるのに，人間がそれを有用だとか無用だとか判断するのは，自己の価値観に囚われているためである。
- ④ この世界は，道がおのずから現れたものであり，人間社会の秩序も道にかなっている。この認識に立った，社会規範にかなう行為が重要である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	11	④	2